

【参考2：有明海の潮汐振幅減少の要因に関する状況整理】

付表3 有明海の潮汐振幅減少の要因に関する状況整理

年	要因	要因<1>： 有明海内の海水面積の減少			要因<2>： 平均水位の上昇		要因<3>：外 洋潮汐振幅 の減少	(参考)：月 軌道の昇降 点の18.6年 周期変動 (係数f) ⁵⁾
		諫早干拓 による面 積 ¹⁾	その他 干拓に よる面 積 ¹⁾	熊本港 による 面積 ²⁾	大浦の 年平均 潮位 ³⁾	口之津 の年平 均潮位 ³⁾	枕崎のM ₂ 分 潮振幅 ⁴⁾	
1971年(昭46)	-	-	-	-	-	-	70.6cm	
1972年(昭47)	-	-	-	-	-	-	70.5cm	
1973年(昭48)	-	-	-	-	-	-	70.7cm	
1974年(昭49)	-	-	-	-	390cm	354cm	70.4cm	
1975年(昭50)	-	-	-	-	388cm	353cm	70.3cm	
1976年(昭51)	-	-	-	-	391cm	355cm	71.6cm	
1977年(昭52)	-	-	-	-	388cm	352cm	71.6cm	
1978年(昭53)	-	-	-	-	388cm	351cm	71.5cm	(極大値)
1979年(昭54)	-	-	39km ² 昭和 40年～ 昭和59 年まで の合計	-	386cm	350cm	71.6cm	
1980年(昭55)	-	-		-	390cm	-	71.7cm	
1981年(昭56)	-	-		-	388cm	351cm	71.8cm	
1982年(昭57)	-	-		-	389cm	356cm	71.4cm	
1983年(昭58)	-	-		-	385cm	352cm	71.0cm	
1984年(昭59)	-	-		-	387cm	352cm	70.4cm	
1985年(昭60)	-	-		-	385cm	348cm	70.4cm	
1986年(昭61)	-	-		-	386cm	350cm	70.4cm	
1987年(昭62)	-	-		-	387cm	352cm	70.9cm	0.964
1988年(昭63)	-	-		-	390cm	352cm	71.0cm	(極小値)
1989年(平元)	-	-	-	388cm	352cm	70.7cm		
1990年(平2)	-	-	-	392cm	357cm	70.9cm		
1991年(平3)	-	-	-	391cm	352cm	70.7cm		
1992年(平4)	-	-	-	391cm	353cm	71.0cm		
1993年(平5)	-	-	-	392cm	355cm	70.9cm		
1994年(平6)	潮受堤防 工事に本 格着手	-	-	391cm	353cm	70.8cm		
1995年(平7)	-	-	-	392cm	355cm	70.8cm		
1996年(平8)	-	-	1.3km ² 熊本 港は、工 事中の ため、埋 立計画 面積を 記載	390cm	352cm	70.1cm		
1997年(平9)	35.42km ² 調整池 と干拓地 の合計	-		391cm	353cm	70.6cm	1.038 (極大値)	
1998年(平10)	-	-		394cm	355cm	69.8cm		
1999年(平11)	-	-		398cm	359cm	69.7cm		
2000年(平12)	-	-	399cm	361cm	-			

資料) 1.九州農政局：有明海と諫早湾の干拓の歴史

(<http://www.kyushu.maff.go.jp/isahaya/outline/history.html>)

2. くまもとファズ株式会社：港湾計画の内容

(<http://www.k-faz.co.jp/port/kport/kport11.html>)

3. 農林水産省水産庁、農林水産省農村振興局、経済産業省資源エネルギー庁、国土交通省河川局、国土交通省港湾局、環境省環境管理局(2003)「平成14年度国土総合開発事業調整費 有明海海洋環境調査報告書(概要版)」、p.77

4. 種子田雄、森永健司、中川倫寿(2003)「海水流動、潮位、水温、塩分等の海洋環境変動過程の把握」、平成13年度 行政対応特別研究、pp.1-2

5. 武岡英隆(2003)「有明海におけるM₂潮汐の変化に関する議論へのコメント」、沿岸海洋研究 第41巻、第1号、pp.61-64